

14.5-189



\*1200501215194\*

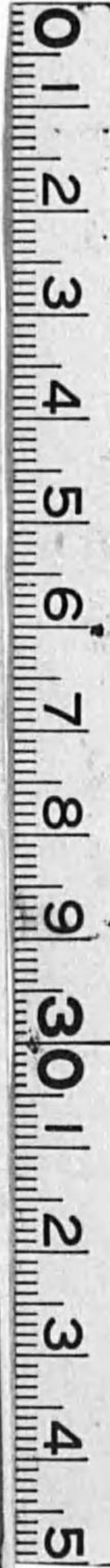
14.5

189

調査資料第二輯

英支兩國の紛争と日英貿易の消長

横濱商業會議所調査部



始





14.5-189

英支兩國の紛争と日英貿易の消長

目次

一、英支間の紛争近因  
二、情勢

三、日英兩國の支那貿易上に於ける地位並に其の現状

(1) 日本の支那貿易に於ける地位

(2) 日英兩國の支那貿易上の比較

四、對支貿易上に於ける横神兩港の現状



寄贈本



## 英支兩國の紛争と日英貿易の消長

### 一 英支間の紛争近因

廣東北伐軍の長江把握といふ一大事實に依つて展開された驚くべき時局の變化は將來への對支國際關係をして收拾するの甚だ困難なるを豫想せしむるに充分である

十月十日廣東の北伐軍が武漢を占領して以來三民五權主義を標榜して諸般の施設を行つた此の施政の背後には共產黨に屬する委員の動いて居ることは當然である其の鋭鋒は群衆運動を以て反對派を壓迫し學生労働者を煽動して茲に排外運動を激成し遂に漢口英租界の襲撃となり英陸戰隊及び義勇兵團の撤退し學隊となり遂に同租界は支那軍隊の占領警戒の下に歸し此の風潮は更に九江に波及して南支那一帯は物情騒然たる情況を呈した

本年一月一日武昌に於て國民政府委員會は閱兵式を舉行し引續いて武漢兩地の官民合同北伐祝勝會並に國民政府武昌移轉紀念大會が開催され更に大規模な排英反キリスト教示威運動が行はれた

三日午後四時頃中央軍政學校宣傳隊が英租界稅關前の群衆に向ひ激烈なる排英演説をなし警戒中の英國水兵が之を中止せしめんとして遂に兩者の衝突となり英兵は銃劍にて群衆は瓦礫を投じ亂闘の結果双方



に數名の負傷者を出し午後八時頃迄對峙したが支那軍隊の出勤に依つて群衆を退散せしめた  
其の後支那軍隊の一部は治安維持を名として英租界に駐まり群衆は任意に租界の防禦工事を撤回し不穩  
の氣勢を示した

四日朝英國側は衝突を避ける爲め陸戰隊並に警察隊を引揚げしを以て翌五日國民政府は陳外交部長の名  
を以て英國租界の治安維持並に同租界内の英國人、其他外國人の生命財産を保護すべき旨を布告した  
一月六日九江に於ても勞働者の一團が英國租界に押寄せ英國陸戰隊と衝突し双方に負傷者を出し形勢不  
穩を極めたので英國官民並に陸戰隊は翌七日早朝英國軍艦に引揚げ爾來同租界は支那軍警に依つて漢口  
同様占領せらるゝに至つた

## 二 情 勢

漢口英租界に於て英支衝突の結果漢口九江兩地の英租界は遂に國民政府の手に回收せらるゝこととなり  
海關、工部局は何れも支那人の手に依つて管理され英國人は續々上海に引揚げ英支兩國の關係は茲に著  
しき緊張を呈した

英國は漢口事件解決の爲め種々其の善後策に腐心し取敢へず英國政府はオマリー參事官を漢口に派遣し  
支那側に交渉せしむると共に從來の強硬政策を改め自由政策に出で新公使ラムズソン氏の着任と相俟つ  
て同政策は具體的に發表された即ち英國の第一次新提案がそれである

同案は其冒頭に於て列國就中英國の對支政策の基調を論じ結論に於てワシントン條約の際決定せる關稅  
附加稅二分五厘を即時且つ無條件にて實施すべきことを主張し國民政府に對する排英の氣勢を緩和し其  
の立場を有利に展開せんとするにあつたが意外にも眞向より反對し却つて支那側の排英的空氣は一般的  
に漲り其の流れは長江下流に向ひ遂に上海を脅威するに至り茲に英國の對支出兵となり更に一月廿七日  
附第二次提案を北京政府と國民政府とに對し同時に提示された其の内容の骨子はワシントン條約を無視  
した英支關係の根本的の更新であるが右新提案に對し國民政府は全般の問題の提議を考慮することを拒  
絶し單に漢口及び九江の英租界返還のみを交渉するに止めることを回答した之れに關する英國側の提案  
は英租界の警察及び行政を支那に還して兩國委員會を組織せんとするのであるが支那側は露國並に獨逸  
租界回收の例に倣ひ特別區として管理せんとする意嚮である

右の如く漢口事件以來英國の行ふ所は悉く期する所に反し其の形勢刻々に變化し今日を以て明日を計る  
こと能はざる状態であるが漢口に於ける昨今は漸次靜穩に赴き一旦引揚げし英國商人等も續々歸漢して  
營業に従事しつゝあり其の間支那側商務總會に於ても英商に對し歸漢して開店方を勸告すると共に一方



實業家は國民政府外交部に向ひそれらの方法に就て交渉する所ありし結果去る廿五日には英國の銀行會社全部閉店するに至つた

四

### 三 日英兩國の支那貿易上に於ける地位並に其の現状

現時に於ける支那對諸外國間の直接貿易の状況を査するに最も優勢の地位を占むるは日英兩國である  
現在支那の全貿易額は毎年十七八億兩を上下し内長江流域十三港の貿易總額は毎年八九億兩内外に達し即ち支那貿易額の五割乃至六割に相當してゐる而も右支那貿易の半數以上を占むる長江流域が此の異常なる動亂と排外運動とに依つて茲に英國の支那貿易上に一頓挫を來し延て我對支貿易に重大なる關係を齎すに至つた即ち革命軍が武漢に進出して以來排外思想の影響に依り英國側の太古、怡和兩汽船會社の如きは毎上下航とも殆ど積荷なく貨客共にがら空の状態であり我日清汽船のみは毎航其船腹を滿たしつゝあるも京漢線は既に數箇月に亘つて河南と湖北省境に於て中斷され年々河南より南下する巨額の特産物は全然出廻り不能となり且つ奥漢鐵道並に南潯鐵道の二箇月以上に亘る軍事占領に依つて奥地との交通は圓滑を缺ぎ加ふるに動亂に亞ぐ動亂により奥地農村の特産收穫は減收し江西、湖南、湖北三省に於ける農産業に多大の打撃を與へてゐる殊に四川より東下する物資は上游各軍の移動と船腹不足の爲めこれ

又殆ど出廻りなく洞庭湖及鄱陽湖の水路より出廻るべき物資も軍閥の民船徵發に依り支離滅裂の状態である

右の如き事情の下に今後の長江貿易は例年より著しく低下すべきは豫想するに難くない

#### (1) 日本の支那貿易に於ける地位

日支兩國との間に條約の結ばれたのは一八七一年であり英國に遅るゝこと二十九年にして通商を開始したのである而も日支兩國間の條約締結以前に於ても日清戰爭頃迄の兩國貿易は甚だ微弱なるものであつた然るに一八九五年より俄かに激増の趨勢となり一九一三年よりは飛躍的進境を示し英米其他の先進國を凌駕するの勢を示すに至つた

日清戦後の増進は日本の工業發達を語るもので歐洲戦後の激増は東洋市場を顧みるの違なき歐洲諸國の圏外にあつたのと支那貿易に於て享有する日本の優越的地位にあるは勿論である今其の貿易の過程を統計的に一八七〇年を一〇〇とせる五年毎の増加状態を見るに

年次	輸入	輸出	合計
一八七〇年	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇
一八七五年	一九三、四	七八、七	一一七、八
一八八〇年	二七二、四	八八、八	一五一、五

五



一八八五年	四〇九、六	六〇、一	一七九、四
一八九〇年	五七四、九	一九四、八	三二四、五
一八九五年	一、三三八、一	五九七、六	八五〇、一
一九〇〇年	二、〇〇四、〇	六八二、六	一、一三三、六
一九〇五年	四、七七一、六	一、四三〇、〇	二、五六九、八
一九一〇年	五、九七三、六	二、四八四、一	三、六七三、九
一九一五年	九、三五七、七	三、一三二、一	五、二五五、六
一九二〇年	一八、〇五五、七	五、七二九、〇	九、八六八、六
一九二二年	一八、二三五、九	六、四四一、一	一〇、四〇三、八
一九二三年	一七、三四五、〇	九、二二三、〇	一一、九九五、〇
一九二四年	一九、一五六、〇	九、三五三、〇	一二、六九九、〇
一九二五年	二四、〇九八、〇	八、九一三、〇	一四、〇九六、〇

六

右表に依り支那貿易に於ける日本の地位は其の取引額の上に於て一八六四年以來著しき進境を示し一九〇〇年代には飛躍的に發展した即ち一八七〇年を基準として八〇年には二、七倍となり九〇年には五、七倍となり一九〇〇年には二十倍に一九一〇年には約六十倍となり歐洲戰亂中の一九一五年には九十三倍に飛躍し戰後三年の一九二二年には實に百八十二倍の數字を示し一九二三年には百七十三倍、二四年には百九十一倍、二五年には實に二百四十倍に達したのである

次に輸出に就て見るに輸入に於けるが如く大した發展はなかつたが一九〇〇年には約七倍となり一〇年

には約二十五倍となり二二年には六十四倍となり二三年には九十二倍、二四年には九十三倍となり二五年には稍々低下して八十九倍を示してゐる斯の如く輸出入共に其進度の急速なるは他國の比にあらざるの進度である

尙對日本輸出入額の全輸出入額に對する比率を見るに

年 額	輸 入	輸 出	合 計
一八七〇年	二、〇二	四、四八	三、一六
一八七五年	三、六六	二、八三	三、二五
一八八〇年	四、四一	二、八三	三、六二
一八八五年	五、九七	二、二九	四、四一
一八九〇年	五、八一	五、五四	五、七〇
一八九五年	一〇、〇一	一〇、三四	一〇、一六
一九〇〇年	一二、二〇	一〇、六五	一一、五三
一九〇五年	一三、七二	一五、五六	一四、三四
一九一〇年	一六、五八	一六、一八	一六、四〇
一九一五年	二六、四六	一八、五四	二二、六六
一九二〇年	二八、七三	二六、二五	二八、四七
一九二一年	二三、二一	二八、六二	二五、三七
一九二二年	二四、四四	二四、三一	二四、五四
一九二三年	二四、一四	三〇、三八	二六、九五

七



一九二四年  
一九二五年

二四、二六  
三二、六八

三〇、〇六  
二八、四八

二六、七二  
三〇、七九

右表に示す如く日本の支那貿易に於ける地位は單に日本側のみならず於て異常なる進歩を示せるのみならず支那貿易全體の上に於ける日本の持分から見ても亦非常なる發展振りである

斯の如き短日月の間に右發展を遂げた所以のものは日本側の努力の預つて力あるものなるは云ふ迄もないが要するに日支兩國が經濟的に密接不利の關係に置かれてあるが爲めて日本は其他地理的關係、國內製造業の發達過程其他風俗嗜好等の點よりして支那向商品の製造に好適したる地位状態にあるを立證するもので屢々兩國の取引を阻碍するが如き運動起りしにも拘らず日支貿易の大勢に何等の打撃をも蒙らざる事實に徴しても日支貿易の發展は自然的經濟原則に基くものであることを立證するものである

(2) 日英兩國の支那貿易上の比較

英國は支那と南京條約を締結して以來支那貿易に於ける王者の地位を占め今日に至つたのであるが近年日本に漸次壓迫せられ一九一六年以來支那外國貿易上第二位に下り日本の爲めに其の地位を轉倒するに至つた

註 海關統計に據れば支那に於ける外國貿易額の主位は從來常に英國の占むる所であつて僅に一九一

八年に日本が之を凌駕せるのみなるも右統計は日本の割合を少く英國の分を多く表示しつゝある所のものである

以下少しく貿易統計に依り其趨勢を検討するに先づ最近十箇年間の支那對外貿易額は

年次	輸入	輸出	合計
一九一六年	五一六、四〇六、九九五	四八一、七九七、三六六	九九八、二〇四、三六一
一九一七年	五四九、五一八、七七四	四六二、九三一、六三〇	一、〇一二、四五〇、四〇四
一九一八年	五五四、八九三、〇八二	四八五、八八三、〇三一	一、〇四〇、七七六、一一三
一九一九年	六四六、九九七、六八一	六三〇、八〇九、四一一	一、二七七、八〇七、〇九二
一九二〇年	七六二、二五〇、二三〇	五四一、六三一、三〇〇	一、三〇三、八八一、五三〇
一九二一年	九〇六、一二二、四三九	六〇一、二五五、五三七	一、五〇七、三七七、九七六
一九二二年	九四五、〇四九、六五〇	六五四、八九一、九三三	一、五九九、九四一、五八三
一九二三年	九二三、四〇二、八八七	七五二、九一七、四一六	一、六七六、三二〇、三〇三
一九二四年	一、〇一八、二一〇、六七七	七七二、七八四、四六八	一、七八九、九九五、一四五
一九二五年	九四七、八六四、九四四	七七六、三五二、九三五	一、七二四、二一七、八八一

註 本表は沿岸貿易額並に支那型船舶の分を含まず

以上の如く右貿易額に於て最近五箇年間の日英兩國の貿易實數を窺ふに次の如し(單位海關兩)

年次	英國		日本	
	輸入(ヨリ)	輸出(ヘ)	輸入(ヨリ)	輸出(ヘ)
一九二一年	一四九、九五、六五	三〇、九三、九六	三三〇、五九、三三	一七二、一〇、七六
	一四九、九五、六五	三〇、九三、九六	一八〇、八四、五七	三六二、四九、六五



一九二二年	一四、五三、五〇	三、五七、七四	一八一、〇〇、四四	三二、四八、八五	一九、七五、五一	三六、一八、三六
一九二三年	二〇、三九、三元	四、〇七、三〇	一六三、〇四、五九	三二、〇四、九七	一九、五七、三六	四〇、九、五四、六四三
一九二四年	二六、〇二、〇五	五、〇一、五〇、八五	一七六、六二、八七	三三、四、七六、六三	二〇、一七、五、九六	四三、五、九三、七、八五
一九二五年	三三、三三、七七	四、七、六三、八五	一四〇、七〇、六二	二九、七五、六二	一八、三三、七、三	四八、六、〇九、六四八

而して右統計は各兩國其屬領地の分を含まざる上海海關統計にして其の輸出入の割合は左表の如し

年次	輸 入		輸 出		輸 入 合 計		輸 出 合 計	
	英本國	日 本	英本國	日 本	英本國	日 本	英本國	日 本
一九二一年	四、一三	五、八七	四、一三	五、八七	三、二一	三、二一	六、七九	六、八〇
一九二二年	三、九二	六、〇八	三、九二	六、〇八	三、二〇	三、二〇	七、一五	七、一五
一九二三年	三、六三	六、三七	三、六三	六、三七	二、八五	二、八五	七、一三	七、一三
一九二四年	三、四九	六、五一	三、四九	六、五一	二、八七	二、八七	七、一三	七、一三
一九二五年	二、三七	七、六三	二、三七	七、六三	二、二〇	二、二〇	七、八〇	七、八〇

即ち右表に示す如く日本は英本國と比較し支那貿易に於ける地位の如何に優勝なるかを知らるに充分である然し香港を通じて行はる、英支貿易と比較するに左表の如し

年次	香 港		日 本	
	輸入(ヨリ)	輸出(ヘ)	輸入(ヨリ)	輸出(ヘ)
一九二一年	三三、一八、〇八〇	一五、八七、〇七	三六四、〇三、一五七	一七三、二〇、七六
一九二二年	三九、三九、七、七	一九、九五、六九	四九、三三、三、三	一九、七五、四、五
一九二三年	三三、一八、〇八〇	一五、八七、〇七	三六四、〇三、一五七	一七三、二〇、七六
一九二四年	三九、三九、七、七	一九、九五、六九	四九、三三、三、三	一九、七五、四、五
一九二五年	三三、一八、〇八〇	一五、八七、〇七	三六四、〇三、一五七	一七三、二〇、七六

一九二三年	二四八、〇八三、四五六	一七五、七九六、二四九	四二三、八七九、七〇五	三三、〇四、二九七	一九八、五七、三四六	四〇、九、五四、六四三
一九二四年	二四三、九二九、三五七	一七三、二六二、九六六	四一七、一九二、八三三	三三、四、七六、八三三	二〇一、七五、九六六	四三、五、九三、七、八九
一九二五年	二六、三三、〇八二	一四、七四、九七四	二九、〇六、〇五六	一九、七五、六二	一八六、三三、〇三七	四八、六、〇九三、六四八

而して右輸出入貿易の割合は

年次	輸 入		輸 出		合 計	
	香港	日 本	香港	日 本	香港	日 本
一九二一年	五二%	四八%	四七%	五三%	五〇%	五〇%
一九二二年	五二%	四八%	四七%	五三%	五〇%	五〇%
一九二三年	五四%	四六%	四七%	五三%	五一%	四九
一九二四年	五一%	四九%	四六%	五四%	四九	五一
一九二五年	三七%	六三%	三八%	六二%	三七	六三

即ち右表に依り日本は英國の次位にあるも右統計は海關統計にして日本の割合を少く英國の分を多く表示せるものであつて其の實際上の地位は固より日本の第一位にあることは既述の通りである

尙海關統計を基礎とし一九二四、五兩年に於ける支那對外及對内貿易中日英兩國の占むる貿易割合を示せば左表の通り



外國貿易	一九二四年		一九二五年	
	金額	割合	金額	割合
日本	三三、六四	三九、六二%	一七、一二	一七、六七%
英國	三四、四二	二五、八〇%	四二、三八	二九、九二%
沿岸貿易	一九二四年		一九二五年	
	金額	割合	金額	割合
日本	一七、一二	一七、六七%	一七、一二	一七、六七%
英國	四二、三八	二九、九二%	四二、三八	二九、九二%
總貿易額	一九二四年		一九二五年	
	金額	割合	金額	割合
日本	二四、七五	二七、一三%	二四、七五	二七、一三%
英國	三三、七一	二八、一四%	三三、七一	二八、一四%

#### 四 對支貿易上に於ける横神兩港の現状

本邦に於ける對支貿易上の地位の如何に重要な關係を有するかは前述の通りであつて其消長は我對外貿易の隆替に繋る重大問題なることは云ふ迄もない而して今我國の對外貿易主要三箇國を比較し之を檢討するに

#### 輸出貿易

年次	總額	對米貿易		對支貿易		對印貿易	
		金額	總額に對する割合	金額	總額に對する割合	金額	總額に對する割合
大正十一年	一、六七、四五、八八	七三、七六、六〇	四四%	三三、五〇、六三	二〇%	九七、二三、八四	六%
大正十二年	一、四七、七〇、七〇	六〇、六九、四三	四一%	二七、二九、〇六	一九%	九九、六九、〇六	七%
大正十三年	一、八〇、〇四、八七	七四、九五、六〇	四一%	三〇、八、七九	一九%	一三、三三、二九	七%
大正十四年	二、三〇、五九、八七	一、〇〇、六、五三	四四%	四六、四八、九六	二〇%	一七、四三、〇七	八%
大正十五年	一、六九、六八、六七	七五、八三、八三	四四%	三九、九七、六五	二三%	二九、〇四、八〇	八%

註 大正十五年分は同年一月以降十月迄とす

#### 輸入貿易

年次	總額	對米貿易		對支貿易		對印貿易	
		金額	總額に對する割合	金額	總額に對する割合	金額	總額に對する割合
大正十一年	一、八〇、三八、三三	五九、一六、九〇	三三%	一八六、三三、七九	一〇%	二五、〇八、八七	一九%
大正十二年	一、九八、三〇、五七	五一、九七、一六	二六%	二〇四、六八、五一	一〇%	三〇、七八、六〇	一五%
大正十三年	二、四三、四〇、二五	六七〇、九三、三〇	二七%	二七、五四、〇三	一〇%	三八、七九、九三	一六%
大正十四年	二、五七、六五、八三	六四、九三、七九	二六%	三四、六五、五九	八%	五七、五三、八二	三%
大正十五年	二、〇五、六〇、七三	五五、〇九、八四	二八%	一九、六八、二二	一〇%	三七、七四、八七	一八%

註 大正十五年分は一月以降十月迄とす

而して我對支貿易主要港は大阪、神戸の二大港にして横濱港の如きは甚だ貧弱なる地位に在り今全國對支總貿易額に對する横濱港の比率を見るに左表に示す如く神戸港に比し格段の相違あるを知るのである

即ち對支總貿易額に對する横神兩港の對支地方別割合は



年次	支那		關東州		香港	
	横濱割	神戸割	横濱割	神戸割	横濱割	神戸割
大正十一年	一、五二	二、一一	二、三一	一、九八	〇、九〇	四、七八
大正十二年	一、二〇	二、三三	一、九七	二、一九	〇、五〇	五、〇一
大正十三年	〇、九六	二、二九	二、〇五	一、八四	〇、一八	四、六九
大正十四年	一、〇〇	二、二九	二、一〇	一、九七	〇、二四	四、八〇
大正十五年	一、三六	二、九八	二、八五	二、七六	〇、二四	六、六四

而して右兩港に於ける輸出入の實數を示せば

年次	(A) 神戸港		昭和元年		大正十四年		大正十三年		大正十二年		大正十一年	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
支那	九〇、四七〇	七、六九	九、三二	五、二〇	七、五二	七、六三	九、八六	六、〇七	三、〇八	四、七五	三、〇八	四、七五
關東州	三、七五	六、四九	三、四三	三、四三	三、九三	三、七二	三、四九〇	三、九四五	一、五九	二、四九	一、五九	二、四九
香港	三、〇六	六、八	三、五五	六、	三、七五	三、	二、八八	一、七四	三、	三、	三、	一、七四
(B) 横濱港	三〇、九八	五、九三〇	一六、八六	五、二〇	八、〇四	四、五六	一〇、三五	四、七九	二、七六	五、〇六	二、七六	五、〇六
支那	一三、七九	四、〇三四	二、八六	四、七〇	五、三九	四、四四	四、一六	三、六〇	四、一六	三、六〇	四、一六	三、六〇
關東州	一、二六	六、	一、九四	六、	一、三九	二、	二、七四	九、	五、八二	四、九七	五、八二	四、九七
香港												

次に右横神兩港に於ける昭和元年中の對支貿易輸出入品中支那並に其他諸外國品との競

争状態にある重要輸出入品を見るに

神戸港より輸出せらるゝ重要商品は(單位千圓)

- 支那へは 海産物 一、一四一 精糖 六、一五九 燐寸 九六〇 綿織絲 一、七七〇 綾木綿 二、七五四 生金申及生
- シールンク 一、七八五 更紗 九一八 印刷料紙 二、二七一 ゴムタイヤ 一、四二九 燐寸軸木 一、一三五
- 香港へは 錫 一、三五八 燐寸 二、三四二 綿織絲 一、八八六 綿フランネル 一、四〇七
- 關東州へは 精糖 一、二二七

横濱港より輸出せらるゝ重要商品は(單位千圓)

- 支那へは 精糖 八、三九〇 綿織絲 四八八 印刷料紙 五二二 電燈球 二〇〇 絶縁電線 二二三 小麥 三、七七五
- 關東州へは 電氣機械 三三〇 精糖 一、一一六 絶縁電線 四〇三 電燈球 四〇三 綿織絲 一〇三 小麥 四、九二〇

香港へは殆ど見るべき額なし而して輸入品は兩港共豆類、豆粕、麩、鳥卵等である

以上の如く横神兩港に於ける對支貿易は關東州に於ては兩港共殆ど同額なるも支那に於ては横濱港は神戸港に比し其半にも達せず殊に香港に於ては殆ど比較にならぬ貧弱なる状態である



145  
189



終

